

麻しん（はしか）患者の発生に伴う注意喚起について

2026年2月17日(火曜日)、滋賀県内に所在する医療機関から彦根保健所へ麻しんの発生病届(臨床診断例)が提出され、滋賀県で遺伝子検査を実施したところ、麻しんウイルス遺伝子が陽性であることが判明しました。

疫学調査を実施したところ、他者に感染させるおそれがある時期に下記公共交通機関を利用しており、不特定の方と接触している可能性があることが判明しました。

本公表は、当該患者と接触した方が麻しんウイルスに感染している可能性があるために、広く情報提供するものです。

1. 患者概要

- 10代 女性 (予防接種歴：無し)
- 主な症状 発熱・咳嗽・結膜充血・発疹
- 渡航歴：なし

2. 発生までの経緯

- 2月5日 発症(発熱、2月7日より発疹)
 - 2月10日 医療機関(彦根保健所管内)に受診され入院
 - 2月17日 医療機関で麻しんと診断され発生病届の提出
 - 2月18日 滋賀県にて遺伝子検査の結果、麻しんと確定
- * 医療機関で本患者と接触した可能性のある方については、彦根保健所および医療機関から注意喚起を行っています。

3. 感染可能期間に利用した公共交通機関

- 2月5日：JR琵琶湖線 南彦根駅(14時30分ごろ) ⇒ 京都駅(15時45分ごろ)
 - ：京都市営地下鉄烏丸線 京都駅(15時45分ごろ) ⇒ 四条駅(16時00分ごろ)
 - ：京都市営地下鉄烏丸線 四条駅(17時15分ごろ) ⇒ 京都駅(17時30分ごろ)
 - ：JR琵琶湖線 京都駅(17時30分ごろ) ⇒ 南彦根駅(19時00分ごろ)

※上記の期間以外ではこれらの公共交通機関を利用しても感染の心配はありません。

公共交通機関への直接のお問合せはお控えください。

なお、上記の京都市営地下鉄の情報については、京都市においても報道発表しております。

4. 上記公共交通機関を利用した方へ(注意喚起)

- ・発病までの期間を考慮し、最大21日間は健康状態に注意が必要です。
- ・発熱、発疹等の症状から「麻しん」が疑われる場合は、必ずマスクを着用し、事前に医療機関に「麻しんかもしれない」ことを連絡の上、速やかに受診してください。また、受診の際は、周囲の方へ感染を拡げないよう、公共交通機関等の利用を避けてください。心配なことなどがありましたら、最寄りの保健所にご相談ください。

5. 参考

(1) 全国および本県における麻しんの発生状況

年次	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
全国	744	10	6	6	28	45	265	32 ^{*1}
滋賀県	9	1	1	0	0	1	5	2 ^{*2}

*1 2026年2月12日時点 国立健康危機管理研究機構 速報値

*2 2026年2月18日時点 暫定値

(滋賀県 HP : <https://www.pref.shiga.lg.jp/eiseikagaku/kansensyou/>)

(国立健康危機管理研究機構 (JIHS) HP :

<https://id-info.jihs.go.jp/relevant/vaccine/measles/060/measlesdoko.html>

6. 麻しん（はしか）について

○主な症状

- ・38℃前後の発熱が2~4日間続き、咳や鼻水といった風邪のような症状が出ます。その後、高熱（多くは39℃以上）が出るとともに、発疹が出現します。その後、多くは7~10日で症状が回復します。
- ・罹患後は免疫抑制状態になることがあります。また、肺炎や中耳炎を合併することがあり、患者1,000人に1人の割合で脳炎や死亡することができる重篤な疾患です。

○感染経路

- ・空気感染※、飛沫感染、接触感染によりヒトからヒトに感染が伝播します。その感染力は非常に強いと言われており、感染する期間は、発症の1日前から解熱後3日頃までとされています。
- ・免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

※麻しんウイルスの空気中での生存期間は2時間以下と言われています。

○潜伏期間 約10日~14日間

○治療法 特異的な根治療法はなく、対症療法(服薬等で症状を軽減する方法)を行います。

○予防方法

- ・麻しんは感染力が強く、手洗い、マスクのみで感染予防はできないため、麻しんの予防接種が最も有効です。海外渡航を計画している方、麻しんのワクチンを2回接種していない方等は、予防接種を検討することをお勧めします。
- ・麻しん患者と接触した場合、接触後72時間以内であれば緊急ワクチン接種により発病を予防できる可能性があります。

○予防接種

- ・麻しんワクチンは2回の定期接種となっており、1回目は1歳児、2回目は小学校就学1年前の小児が対象となっています。
- ・麻しんウイルスに対して免疫ができる割合は、1回のワクチン接種で95%、2回のワクチン接種で99%と言われています。

※本情報提供は、感染症予防啓発のために行うものですので、報道機関各位におかれましては、患者等の個人に係る情報について、プライバシー保護等の観点から、提供資料の範囲内での報道に、格段の御配慮をお願いします。